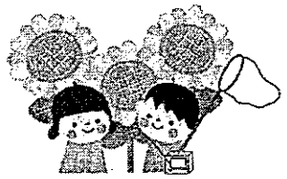
図書館だより　７月号

奈良大学附属高等学校　図書部 発行



期末テストも無事に終了しました。目の前には、待ちに待った夏休み！　自由に使える時間がたっぷりあるこんな時こそ、読書を楽しんでみてはどうですか？　集英社文庫から「ナツイチ」を配布します。夏にオススメの本がたくさん紹介されていますよ。この夏、本との出会いを楽しみ、いろんな場所に旅し、多くの冒険をしてください。

読書感想文に挑戦しよう！！

今年62回目となる「青少年読書感想文全国コンクール」の募集がスタートしています。１冊の本にじっくり取り組み、本を読んだ後に感じた思いを、友達に話すように言葉にしてみよう。感想文を書くことで自分を振り返り、より深く自分を見つける機会になります。

１年生は夏休みの課題となっています。もちろん、２、３年生のみなさんも挑戦してみてくださいね。

今年度の高等学校の部の課題図書は

① 『タスキメシ』額賀澪・著　(小学館)

駅伝×料理男子! 陸上の名門高校を舞台に、陸上を離れ料理に没頭する兄と駅伝出場を決めた弟の熱い思いが交錯する青春スポーツ小説の金字塔!! 部活動が舞台で、感情移入しやすいですよ。自己を考える機会にもなります。

② 『ハーレムの闘う本屋　ルイス・ミショーの生涯』

ヴォーンダ・ミショー・ネルソン・著

R・グレゴリー・クリスティ・イラスト

原田勝・訳　(あすなろ書房)

権力、差別に屈することなく、NY・ハーレムに全米一の黒人専門書店をつくりあげた男の生涯を描く。表現の自由とは? 民族の誇りとは?　米国ではわずか数十年前まで黒人差別が深刻だった実体を知ろう。

② 『シンドラーに救われた少年』

レオン・レイソン・著　古草秀子・訳 (河出書房新社)

第二次世界大戦中、多くのユダヤ人をナチスによる虐殺から救ったドイツ人実業家シンドラー。ごく普通の人間だった彼の勇気の理由とは何だったのか? 彼に命を助けられた最年少の少年の証言、過酷な体験の記録。戦争の怖さに気づかされます。

以上の３冊です。図書館に揃っていますよ。課題読書、自由読書、どちらでもOKです。詳しい要項は、「夏休みのしおり」に書いてあります。

図書委員　今月のオススメ

１年Ｂ組　　中野　柊羽

日本の仏像〈佐藤昭夫　主婦と生活社〉

歴史や神社などが好きな方には、おすすめの本

日本全国の仏像、塔、仏教のルーツなどが載っています。

興味のある方は是非見てみて下さい。

３年Ｅ組　　内種　都久美

『ブランケット・キャッツ』

著者：重松 清　　出版社：朝日新聞出版

～あらすじ～

専用の餌とブランケット…２泊３日…

それを条件に猫をレンタルできる店があるらしい。

いまを生きる孤独と救済を描いた、

猫とひとの物語。

-全7編の短編集-

- 花粉症のブランケット・キャッツ
- 尻尾のないブランケット・キャッツ
- 嫌われ者のブランケット・キャッツ
- 我が家の夢のブランケット・キャッツ
- 助手席に座るブランケット・キャッツ
- 身代わりのブランケット・キャッツ
- 旅に出たブランケット・キャッツ

～感想～

あまり本を読まない私でも読みやすかったです。

お気に入りは「旅に出たブランケット・キャッツ」

この話では他の話とは違い、猫の視点で不思議な感じでしたが

登場した兄妹とのやり取りが面白かったと思います。

短編小説なのでみなみの話からぜひ読んで見て下さい。

２年Ｇ組　　松田　一輝

銃殺で死刑となった貧しい大学生ラスコーリニコフは、「一つの微小な悪は百の善行で償われる」という信念のもと強欲非道な高利貸しの老婆を殺害し、その財産を有効に利用しようとするが、偶然居合わせた老婆の妹までも殺してしまう。この事件をきっかけに第二の殺人がラスコーリニコフの心に生じ、苦しみのしがらみ、彼は界の悪意に満ちかえる。そして、ある女性との出会いが、自己犠牲の精神に満ちた人間である主人公は、偶然出会った娼婦ソーニャの自己犠牲に徹した生き方に打たれ、ついに自らも法の手にかかります。

1860年代のロシアで急激な資本主義社会が始まりすでの強い世代の台頭を示唆し、強烈な人間らしさの回復と新秩序ヒューマニズムを扱った作品です。

「罪と罰」　ドストエフスキー

工藤一郎：訳

新潮出版

6月の図書館利用状況			
1年生	2年生	3年生	合計
85人	55人	166人	306人

今月も、期末テスト一週間前頃から自習の利用者が増えてきました。しかし、飲食物の持ち込みなどの行為が見られます。もう一度、公共の場所でのマナーについて、図書館の利用について考えてみよう。

夏休みは、８月からは図書館利用が再開されます。ご迷惑をかけていますが、もうしばらくお待ちください。